

第 11 回 村立幼稚園職員等ワーキング・チーム会議 会議録

日 時	令和 3 年 10 月 4 日 (月) 午後 3 時～午後 4 時 50 分
場 所	東海村役場 行政棟 原子力視察研修室
出席者	<ul style="list-style-type: none"> ・各村立幼稚園職員 (7 名) ・村立保育所及びこども園職員 (4 名) ・指導室 (1 名) ・子育て支援課 (3 名)
次 第	<ol style="list-style-type: none"> 1. 開会 2. 子育て支援課長挨拶 3. 議事 <ul style="list-style-type: none"> ・作業部会の進捗状況について 4. 閉会

1. 開会

2. 子育て支援課長挨拶

- ・緊急事態宣言などにより臨時休園が続いていた中で、作業部会のうち予算に影響する内容の部会については最優先に協議を進めてきた。忙しい中、短期間で協議を進めてもらった部会については協力に感謝する。
- ・今回は、協議が進んでいる部会から、進捗状況を報告してもらう。

3. 議事

●作業部会の進捗状況について

- ・別紙「作業部会の協議状況 (R3.9 月末時点)」をもとに、各部会から進捗について説明。

教育方針・教育目標部会

<教育目標 (案)> キラキラとかがやき、未来をつくる子を育てる

- ・文言については、今後の各部会の協議状況などによって表現を修正する可能性も含めているので、まだ確定ではない。
- ・最近開所した「けやきの杜保育所」での、教育目標などの検討時の意見や反省点 (教育目標は覚えやすく、一般的に分かりやすいものが良い) などを参考に協議した。
- ・「とうかい教育プラン 2025」の基本理念のひとつ、「村民一人ひとりがキラリ輝くまち“とうかい”」のように、「キラリ」といった東海村らしいインパクトのある表現も参考に、「キラキラ」という言葉を入れた。
- ・「キラキラ」と輝くのは、子ども 1 人 1 人も輝き、集団としても輝いていくというイメージ。「未来」は、個々の未来でもあり、東海村だけでなく世界も含めて未来をつくっていくというイメージ。「義務教育が終わる 15 歳になったときの姿」を想像し、保幼小中の連携を通して見据えて考えた。

<目指す幼児像（案）> 元気な子、やりたいことがある子、思いやりのある子

- ・村松幼稚園の子どもたちはどんな子になってほしいか意見を出し合い、出た意見を分類し、子どもにも分かる言葉として、「元気な子、やりたいことがある子、思いやりのある子」となった。
- ・「やりたいことがある子」という表現はあまり聞き慣れないかもしれないが、「やりたいことがあって初めて楽しく幼稚園に来て、夢中になって取り組んでいくのではないか」という意見をもとに、「やりたいことがある子」を育てたいという考えに至った。
- ・「思いやりのある子」は、単純に思いやりがあって優しいだけでなく、相手との考え方の違いに気付いて、自分の気持ちを整理し折り合いをつけられたり、言葉での表現や伝え合いから、心のつながりを感じられたりするように考えた。

<教育方針（案）>

（１）幼児教育の充実

<p>①大規模園の特徴を活かし、多様な人と触れ合うことで、思いを伝え合ったり試行錯誤したりしながら、支え合って生きるための協同性や社会性を育む保育活動の充実を図る。</p>	<p>複数学級の村立幼稚園が 1 園となることで、友達や学年を越えた繋がりや、地域の方など様々な人とのふれあいの中で、自分の思いをどのように伝えるか試行錯誤して、協同性や社会性を育んでいく。</p>
<p>②「遊びは学び」を基盤に、主体的にかかわりたくなるように工夫した環境や、園内外の自然の中で直接的な体験を重ねることで、好奇心や探求心・創造力を育む保育活動の充実を図る。</p>	<p>幼児教育は環境から育っていくということから、子どもたちが主体的に活動でき、関わりたくなるような保育環境を整えていく。</p>
<p>③研究を推進していく機能を持ち、さまざまな研修を通して教職員の指導力の向上を図り、一人ひとりの子どもとしっかり向き合う保育の実践をする。</p>	<p>村立幼稚園が 1 園になっても、引き続き保育について研修を行ったり、研究を推進したりする機能をもつ。</p>
<p>④小学生との交流や職員同士の相互理解・研修を通して「幼児期の終わりまでに育てほしい姿」を共有し、幼児教育と小学校教育の円滑な接続を図る。</p>	<p>各学区の小学校との交流方法を工夫し、切れ目のない幼児教育を小学校教育に円滑に接続できるようにする。</p>

（２）グローバル社会に対応できる教育の推進

<p>①人との関わりを通して自分と相手との違いに気付いたり、さまざまな体験を通して文化の違いや伝統行事に興味をもったりして、多種多様な環境にも適応し楽しめる力の基礎を培う。</p>	<p>外国語や異文化に触れる前に、まずは自国日本の文化に親しみを持つことから始め、自分と相手との違いに気付き、伝統行事なども大切にしていける。</p>
--	---

②NLT を配置することで、日常的に外国語や異文化に触れる環境を作り、異文化に興味をもつための基礎を育む。	外国語を覚えるのではなく、日常的に NLT と触れ合いをもち、自分との言語や文化の違いに気付くことで、異文化に興味を持つことを意識していく。
③保育の幅広い活動の展開や学びの質を向上させるため、ICT を活用した保育活動を推進する。	これからはタブレットなどの ICT を保育などにも取り入れていく時代になる。

(3) 家庭・地域との連携

①幼稚園と家庭との相互の助け合いとなる「保護者との連携」と、家庭での子育てに対しての手助けとなる「子育ての支援」を通して、家庭の教育力の向上を推進する。	幼稚園在園児保護者との連携。 日々、保護者と話し合いをしたり情報交換をしたりして信頼関係を築き、子育て等についての悩みを手助けする。
②多様な世代との交流を通して地域とのつながりを持ち、地域の人的・物的資源を活用した保育活動を推進する。	地域の方との連携。 これまでの「地域」は各園の学区だったが、ここでいう「地域」は村全体として考える。 高齢者クラブ、中高生、地域の方で特技のある方たちなどとの繋がりを続けていく。
③地域に開かれた幼稚園として、入園前の子どもの集団生活の体験や、保護者同士のつながり・子育てのことを学べる場としての役割を担う。	未就園児とその保護者（親子）との連携。 村松幼稚園への入園の有無を問わず、地域に開かれた幼稚園として、東海村に住む未就園を受け入れ、相談に応じる等の役割を担っていく。

(4) 多様なニーズに応じた教育

①一人ひとりのニーズに寄り添い、すべての幼児が共に生活し、共に学び合う環境構成と個に応じた支援の充実を図る。	帰国子女や外国人、ジェンダー等を想定し、相談しやすく入りやすい支援をしていく。 「一人ひとりのニーズ」として、預かり保育についても含んでいる。
②多様な人とのかかわりを通して一人ひとりの個性や違いに気づき、相手を認め、互いに受け入れ支え合おうとする心を育てる保育活動を推進する。	一人ひとりが違うということに気付いたり、自分との違いも含めて相手を認めたり、自分も相手も大事にする心を育てる保育活動を推進する。
③組織的・継続的かつ計画的な指導や支援のために、関係機関と連携し、専門性に基づいた支援や小学校との切れ目のない支援の継続を図る。	支援を要する子どもの幼児期を専門性に基づいて支援し、小学校にも切れ目のない支援を繋げていく。

昼食の提供部会

- ・昼食の提供については、保護者の手作り弁当の日を残しつつ、村として昼食を提供する方針となっている。それを受けて、具体的な提供方法について、幼稚園へ昼食を提供している実績があるいくつかの業者をもとに検討したが、弁当方式が現実的だった。
- ・弁当方式の試食を検討していたが、緊急事態宣言を受けて未実施となっている。
- ・食缶方式については、対応可能な業者は現時点では1社のみ。週に1回程度の汁物の提供であれば可能ということだったため、週数回の弁当と食缶の併用は難しい。
- ・施設整備については、園舎・園庭整備部会との兼ね合いもあるが、弁当の配送業者の搬入口、弁当の保温や牛乳の保冷のための配膳室、2階保育室へ昼食を運ぶためのエレベーターが必要ではないかということになった。
- ・関係備品についても、弁当を保温するための保温庫、牛乳を保冷するための冷蔵庫のほか、業者が搬入するための台車やコンテナなどの配置場所の確保も必要になる。
- ・昼食の提供の実績がある業者のいずれも、アレルギー食の提供は厳しいとのこと。アレルギーへの対応については引き続き調査・検討する。
- ・今後の予定として、弁当の試食と業者の検討、配膳等について保健所への確認・調整となる。

送迎対応・駐車場部会

- ・送迎対応については、現時点ではジャンボタクシー3台と想定して、乗降場所の整備を検討する。
- ・送迎車両は具体的な利用対象者数が見えてから検討していく。
- ・送迎車両や昼食の配送業者の車両が正門側から出入りできるようにするための正門周辺の整備や、安全確保のために正門側と園庭の境にフェンスの設置などが必要と考えている。
- ・来年度から転園の影響を受ける子どもが入園するため、利用対象者アンケートなどを行いながら、送迎車両の添乗職員や、送迎車両の契約方法等について、今後検討していく。
- ・現在の園舎裏の砂利駐車場については、従来通りの使い方を想定しているが、職員駐車場のスペースを一部移動して、できるだけ保護者が利用できるようにする。
- ・交番跡地については、保護者や職員の新たな駐車場として整備が必要。整備に当たっては、利便性や安全性の観点から、出入口の傾斜を緩やかにすることや、出入口の通行を一方通行とすること、フェンスや看板の設置をすること等を考えている。
- ・東海中第2グラウンド横については、原研通りを渡ることになるため危ないといった意見等があったことから、職員駐車場としての利用を想定していたが、すぐに整備を始めるのではなく、統合後の駐車場の使用状況を見てから整備の必要性の有無を含めて判断する。
- ・今後は安全確保策として、交番跡地駐車場に防犯カメラを設置したほうが良いのか、園までの歩道に立哨を配置するかどうか、園舎裏の砂利駐車場も含めて駐車場の運用ルールをどうするか、などについて協議していく。
- ・整備内容も含めて自治会へ説明しながら立哨等ご協力いただけるところは協力をお願いしたいと考えている。

ICT 部会

- ・職員室内に Wi-Fi を設置し、机などもフリーアドレスとする。現在は 1 人 1 台の事務机があるが、可動式のミーティングテーブルにすることでテーブルを合わせたり離したり自由なレイアウトで使用することで、限られたスペースを広く活用できるようになる。
- ・常に職員室にいるのは、パソコン等の作業が必要となる正副園長や主任、担任と考えれば、現在の職員室の広さで問題ない。
- ・フリーアドレス化によってテーブルのレイアウトが自由になるため、職員室の一角に保健室スペースを設置する。ただし、常設はせず必要な時に仕切れるようにロールスクリーンを天井に取り付けたり、折りたたみ式のベッドを用意したりしておく。
- ・書類関係は机上に置かず、書棚用のロッカーや各保育室の棚を活用したりする。ただし、正副園長や主任、担任については、書類が多いとの意見があったことから、キャスター付きのデスクキャビネットを配置する。その他の細かい備品等については、今後検討していく。
- ・教職員の更衣室や休憩室については、園舎内各所にある資料室等を整理し、更衣室や休憩室に活用したりするなど、分散して設置するようにする。
- ・幼小交流で Zoom を使うとなると、役場に専用のパソコンを借りに行く必要がある。セキュリティの観点から、現在のパソコンでは Zoom が使えず、私立幼稚園が 1 園になるため、幼小交流を手軽にできるようなオンライン用のパソコンなどがあると良い。あわせて、大型のディスプレイもあると活用できるのではないかな。
- ・タブレットについては、けやきの杜保育所の「コドモン」と、石神幼稚園の「てのりの」等で検証中のため、導入の可否については保留としている。今年度、それぞれの検証結果（導入することでどれだけ業務量が減らすことができるか、保育面にはどのように活かせるか等）を報告する予定となっているので、その検証結果もあわせて精査して決めていくこととしている。

園舎・園庭整備部会

- ・全国的にも園庭の見直しが進められており、村松幼稚園も多様な遊びや自然との関わりを持つような場所にしていく。年齢別や運動量別のゾーン分けや、対流性のある導線がしっかりした園庭としたい。
- ・園庭づくりも、業者に任せるだけでなく、先生や保護者、地域を巻き込んで作り上げていくことで愛される幼稚園になっていく。どこを業者をお願いするのか、どの程度であれば自分たちで整備を進められるか、優先順位の高いのはどこかを図で可視化しながら協議した。
- ・正門周辺は、送迎車両や昼食の搬入車両の出入りがあることから、安全のため園庭との境にフェンスを設置した方が良くはないかと関係部会と話をしている。
- ・総合遊具については劣化が激しいため撤去し、撤去後は虫取りなどの生態系を学べるエリアとして草花を生やしたり築山を設置したりしてはどうかと考えている。
- ・園庭中央部分は、園舎から総合遊具に向かう導線になり、園庭の中央部では遊びが生まれにくい状態となってしまっている。中央部に思い切って大きな築山を設置してはどうかと考えた。村内でも、園庭の中央に築山を作ってうまく活用した遊びが生まれている園がある。

- ・理想の園庭は、①なるべく広く、②様々な地形がある、③斜面は最も必要、全体的に自然的で人工的に感じないものが良いと言われている。
- ・園庭の考え方としては、中と外の遊びを分けず、紙芝居や絵本を外で読むことができたり、お絵かきや粘土、室内のおもちゃを外でも遊んだりできるように日除けがあると良い。
- ・様々な大きさの樹木を築山の頂点や周辺に設置したり、アスレチックや土管、芝などを組み合わせた築山を作ったり、タープを設置して日陰を作ったり…と、様々なパターンを考えている。
- ・総合遊具の前のスロープはケガ防止として撤去し、なだらかな斜面にして芝を張ってはどうかと考えている。築山へ土を補充する必要があるときは、裏門からトラックが入ることもできるが、搬入時の導線については園庭の全体像から改めて確認する。
- ・園庭の整備は一気に行うのではなく、3～5年くらいの時間をかけながら、子どもたちの様子を見ながら変化させていくような作り方ができれば良い。
- ・園庭の真ん中に築山を作った場合、運動会をどうやって開催するのか部会の中でも検討したが、日々の保育日数と、運動会の日数を比べたときに、子どもたちにとっては日々の保育のほうが大事だろうという意見が大きかった。実際に園庭の真ん中に築山がある園の運動会の事例としては、あらかじめロケーションを保護者に周知したり、築山を上ったり下ったりする競技を取り入れたりしていると聞いた。従来の考え方に囚われずに、やり方を工夫していく。
- ・園舎については、増築などの大きな整備はできないが、関係部会とも情報共有をしながら今ある園舎の中で活用方法を考えていく。
- ・予算との兼ね合いがあるため、来年度設計の中でどこまで整備できるのかはまだ分からないが、幼児にとって必要な環境が保障される園庭になるのではないかと思う。
- ・子どもたちにとって楽しいだけでなく、教職員が園庭の管理に負担を感じないようにすることも考える必要がある。安全面を考えると、防犯カメラで職員室内からも様子が見えるようにしたほうが良いのではないかという意見もあった。

●ハード面の整備について

- ・村松幼稚園のキュービクル（高圧受電設備）については、配膳室などの新しい設備とあわせて、ハード整備の中で一緒に整備していくことを考えている。
- ・令和5年度の村松幼稚園は、園児を受入れながらの工事となるため、工期が限られる。できるだけ長期休みの期間を利用して進めることを考えていく。限られた工期の中でどこまでできるのか来年度設計の中で詰めていくことになるかと思うが、場合によっては令和5年度に限らず、令和8年度の石神幼稚園の統合までの間に、必要な整備を順番に行っていくことを考える必要がある。

<今後の予定について>

- ・緊急事態宣言下で協議ができなかった部会については順次開催してもらおう。
- ・その他の部会についても、必要に応じて協議を進める。
- ・次回のワーキング・チーム会議は、作業部会の進捗状況を踏まえて、12月～1月頃に開催予定とする。

4. 閉会